

ビジネスパーソンが知っておきたい西洋名画5選

“感性をきたえる”篇

たくさんの作品の中からお気に入りを見つけることで感性をきたえましょう。
門外不出の作品など、大塚国際美術館ならではの5選です。

作者不明

アレクサンダー・モザイク

ナポリ国立考古学博物館、ナポリ、イタリア 前100年頃 313×582cm

古代

B3階 展示室10

ファウヌスの家(ポンペイ)から出土した床モザイク。アレクサンドロス大王とペルシアのダレイオス3世の戦いが描かれている。かつて絵画とは壁画など、巨大で額縁に収まらないものでした。

ボッティチェリ、サンドロ

ヴィーナスの誕生

ウフィツィ美術館、フィレンツェ、イタリア 1485年頃 172.5×278.5cm

ルネサンス

B2階 展示室30

神話に登場する愛と美の女神ヴィーナスが、海から誕生し、貝殻に乗って浜辺に打ち寄せられる場面。長すぎる首や腕、傾いた立ち姿は実際には不正確だが、作者は正確さより美を優先し、この作品を完成させた。

ファン・エイク、ヤン

アルノルフィーニ夫妻の肖像

ナショナル・ギャラリー、ロンドン、イギリス 1434年 81.8×59.7cm

ルネサンス

B2階 展示室42

友人の結婚記念に描いた作品。凸面鏡には夫妻の後ろ姿と、結婚の証人である画家の姿、鏡の上にはサインが確認できる。油絵を完成させた画家が描いた、鉛筆による写真のごとき細部描写に注目。

ピカソ、パブロ

ゲルニカ

レイナ・ソフィア国立美術館、マドリード、スペイン 1937年 349×777cm

現代

1階 展示室89

母国スペインの町ゲルニカが受けた無差別爆撃。衝撃を受けたピカソは、パリ万博の壁画として、大作をわずか1カ月で仕上げた。直接、爆撃を想起させるものは描かれておらず、観る者の想像を掻き立てる。

クライン、イヴ

青のモノクローム

ポンピドゥー・センター、パリ、フランス 1960年 195.1×140cm

現代

2階 展示室86

日本に滞在した画家は、禅の「無」の思想を独自の美学へと展開。見る者を引き込む青一色の画面で世界の注目を集めた。彼が開発した青は「インターナショナル・クラインズ・ブルー」と呼ばれる。

